

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H02717

研究課題名(和文) アジアの在地の協働によるグローバル問題群に挑戦する実践型地域研究

研究課題名(英文) The Practice-oriented area study challenging to global issues through Zaichi No Kyoto (Collaboration of Locally existing)in Asia

研究代表者

安藤 和雄 (ANDO, KAZUO)

京都大学・東南アジア地域研究研究所・連携教授

研究者番号：20283658

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、バングラデシュ、ブータン、ミャンマー、ラオス、インドの7村と日本3村を対象とし、過疎、農業離れ、気象災害等をグローバル問題群とし、解決方法を国際協働で模索する実践型地域研究の構築におかれていた。それに向けてPLA、PRAでグローバル問題を整理し、学術発表を行った。客観的分析型の現象説明を行う地域研究に加え、主観的直観型の問題解決への実践につながっていく自覚形成をめざした実践型地域研究の必要性と方法論がメンバー間で議論され、グローバル問題の取り組みには大学を拠点とするモデルが実践的試行の必要性がメンバー間で共有された。そして、新たに科研B、JICA草の根の二つの事業が生まれている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の地域研究は、その地域や社会で起きている問題を客観的に分析し、説明することが目的とされてきたことから、問題解決にどう取り組んでいけばいいのかという実践が研究対象となつてこなかった。そのために、地域住民や実践者と研究者には大きな溝が存在していたと言える。本研究ではその溝を埋めるべく、実践に向かう自覚の形成である主観的なアプローチが実は問題解決にとっては重要であることを地域研究において再確認し、過疎、環境問題などのグローバル問題に取り組むためには、大学が地域の拠点となっていくことの必要性が再確認されたといえよう。

研究成果の概要(英文)：The study was set on the construction of a practice-area study to seek solutions through international collaboration for seven villages in Bangladesh, Bhutan, Myanmar, Laos and India, and three villages in Japan, using depopulation, abandon farming, weather disasters as a group of global issues. Towards this end, global problems were organized at PLA and PRA and academic presentations were made. In addition to area studies that provide objective analytical explanations of phenomena, the members discussed the necessity and methodology of practice area studies that aim to form an awareness that leads to practices to subjective intuitive problems and shared the need for practical trials of university-based models for tackling global issues. And two new projects have been created: the Science Research B project and the JICA Grassroots project.

研究分野：地域研究

 キーワード：国際協働実践型地域研究 アジアの過疎農業問題 農業離れ 気象災害 災害教育 アジアの在地 日本
 の過疎農業問題 グローバル問題群

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

国内・国外の研究動向と位置づけ

日本の農山村における過疎や農業離れは、少子高齢化社会、限界集落の問題と関連づけられて、メディアでも盛んに取り上げられている。学術分野でも、ボランティア、地産、観光業など

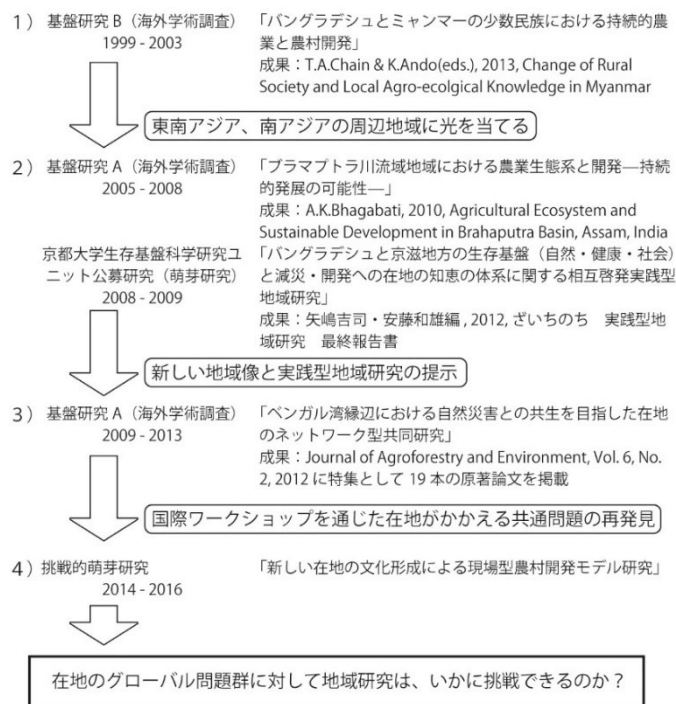


図1 これまでの研究プロジェクトの連続性

題であり、それぞれの在り地農山村社会の持続的発展のあり方や将来像に大きく影響を及ぼすものである。従って日本での実践的取組や議論は、学術的にも、アジアの広がりの中に位置づける必要がある。本研究は、(1)日本と東南アジア・南アジアの在り地をグローバル問題群で連携させ、(2)PRA (主体的参加型農村調査)、PLA (参加型学習と行動) とアクションリサーチを総合化し、(3)実践と研究を学際融合研究として展開する「実践型の新しい地域研究」の試みである。

研究成果を踏まえ着想に至った経緯

1999 年以来、本研究参加者らは、東南・南アジアの在り地における持続的農業発展と開発、自然災害、在り地の集合体からみた新しい地域像などに関する研究を展開してきた (図 1)。2009-13 年には、調査地の村々と大学・NGO をネットワークで結び、PRA や参加型ワークショップを開催してきた。こうした研究活動を通して明らかになってきたのは、アジアの農山村でも、持続的発展の阻害要因となる過疎や農業離れが起きているという事実である。教育を受けた若者や富裕層の農業離れ・村離れにより、農業労働者不足の問題が深刻化している。これらの国々では近年、食糧自給がほぼ達成され、国家単位での貧困問題はある程度解消されつつあるが、その副作用として「農村の持続性維持への関心が低下する」という事態を招いている。この問題が放置されれば、在り地農山村は、近い将来急速に脆弱化することは明白である。在り地が従来有してきた食糧供給や失業への緩衝機能は失われ持続的発展は危機的状況に陥るであろう。こうした危機を回避するためには、「過疎先進国」に住む日本の研究者が、これらをグローバル問題群と捉え、自らの経験を省みつつ、解決に向けて行動を起こす必要がある。本研究の着想は、アジアと日本の在り地農山村の持続的存続と再生への願いから得られたものである。

学術的な特色と独創性

従来の地域研究は、一般的には、その対象に日本を含んでこなかった。グローバル問題群についても、研究者が一方向的に海外の国や地域に関与して理解・分析を行う、いわば問題説明型の研究手法が取られてきた (図 2 左)。しかし、人々の暮らしや社会の問題を科学的に分析し論理的に説明できたとしても、それが問題の解決 (或いは解決を志向する実践活動) に結びつかなければ意味が無い。現実には、場の人々の人間関係や資源など、単なる問題分析では扱い切れない要因が複雑に影響し合う。この複雑な要因を研究対象に組み込まなければ問題の現実的な解決には至らない。本研究は、研究者が在り地の人々と双方向的な関係を築くなかで、自らに当事者性を帯びさせつつ問題解決を図る実践型地域研究である (図 2 右)。本研究参加者のなかには、在

農村再生の実践における成功事例の研究や、環境・耕地保全のための政策提言を合意する農山村統廃合・栽培放棄地調整などに関する様々な理論が展開されている (林直樹他 2010 『撤退の農村計画』)。

本研究で扱うグローバル問題群も、地域研究を始め開発学、開発人類学、保健医学など関連分野で近年活発に議論されており、とりわけ、ガバナンスの問題、防災・減災、感染症対策、老人医療、地域健康医療などが取上げられている (『地域研究』2011(1,2), 2013(1), 『みんなく実践人類学シリーズ』叢書など)。ただし、これらはそれぞれが別個の問題として、相互に関連付けられずに取り上げられることが多く、また、日本国内の問題として扱われるため海外をフィールドとする地域研究者の関心の対象とはなっていない (木村宏恒他 2009 『国際開発学入門』)。

実はこれらの問題は、程度の差こそあれ、アジア各国が共通に抱える問

地という「人の暮らしが見える場」でのアクションリサーチを実施し、グローバル問題群の解決

に向けた様々な策を提示する「応用実践学の地域研究」を提唱してきた者もいる。その経験から、日本の問題もグローバル問題群の一つと位置づけ、研究者の当事者的意識を高める手法を本研究では地域研究の一つとして体系化を試みている。日本人である研究者自身が当事者として問題に向き合い、問題の解決こそが研究の最終目的であると自覚することが、関係者に相互啓発的な刺激を与え、それこそが各地域の事情に合ったアクションプランの作成につながる。ここで重要なのが、分析結果を参照しつつもそれに囚われない

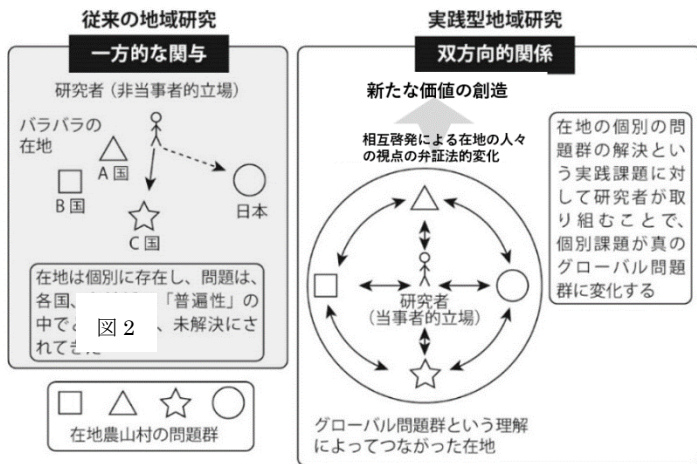


図3 グローバル問題群へ取り組む実践型地域研究模式図

解決への「直観」と「確信」である。異文化を背景とする国際協働の関係者が相互啓発できる PLA (参加型学習と行動) によるアクションリサーチは、固有性を捨象する従来型の分析研究が跳ね返されてきた現実の壁を、当事者を研究の主体とする実践による相互啓発という弁証法的論理で乗り越え得るという点で優れた方法である。日本と海外をグローバル問題群でつなぐことで、当該国の在地に暮らす人々の問題解決のための国際協働の応用実践学として、独自の学問的意義を明確に持つことになる。本研究の学術的独創性はこの点に集約される。

2. 研究の目的

日本の在地（農山村）では過疎、農業離れ、栽培放棄地、気象災害、地域健康医療水準の低下などの問題が深刻化している。これらの問題は近年、熱帯アジア諸国の在地において顕在化し「グローバル問題群」となりつつある。本研究では、これらの問題群が顕著に現れる熱帯アジア5か国（バングラデシュ、ブータン、ミャンマー、ラオス、インド）の7村と日本3村を調査対象とし、従来の非当事者的立場からの問題説明型研究ではなく、実践志向で問題を解決に導く問題解決型地域研究を目指す。日本の調査村を海外の地域と同等の共同調査地に設定することによって、在地という場と人を明確にすることでアクションリサーチの投入を可能にする。本研究は、地域研究を、グローバル問題群の具体的な解決方法を国際的協働で模索できるような実践応用学へと進化させることを目的とする。

3. 研究の方法

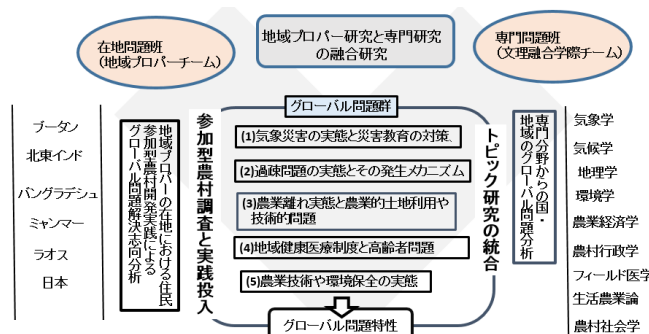


図3 仮説的相互啓発的国際協働モデル

ことで、在地の住民参加による実践投入が可能となる。そのプロセスを仮説的相互啓発的国際協働モデルとして図3に示した。

相互啓発的国際協働モデルと組織

グローバル問題群の共通性と固有性、関係性の多重性がつくる多義的な特性を明らかにするためには、文理融合・分野横断チームの「専門問題班」と、在地の言語と社会習慣に精通した地域プロパーチームの「在地問題班」との融合研究が必要である。地域の問題特性を明らかにすることこそ、グローバル問題群の分析に地域研究が必要とされる理由ともなる。このグローバル問題群特性を考慮する

研究計画スケジュールと手法

申請時の計画では、アジア諸国と日本の農山村における過疎・離農問題を「グローバル問題群」と位置づけ、かつ地域に適応した解決方法を導くためには、問題を多義的に捉えうる専門性と、地域の日常実践に精通した経験知が不可欠である。本研究はこの点において、対象とする6ヶ国と日本での実地調査経験を有する本研究参加メンバーである地域研究者と、各地域の現地研究者およびNPO/NGOの実務家がチームを組んで取り組む体制を確立する。1年目に地域（地域チーム）ごとにPLAを手法としたローカル問題群についての調査を実施する。その内容は住民との参加型ワークショップでまず検討される。次に2年目に、ローカル問題群評価ワークショップが開催され、各地域のローカル問題群のグローバル問題群としての特質を検討する。そこから

問題解決の糸口を探るためのフィールドワークを実施し、3年目に農村開発計画評価ワークショップ、4年目にPLAアクション計画評価ワークショップを開催して具体的な解決策を見出す。一連の成果と実践型地域研究方法論を最終成果にまとめる。しかし、コロナ禍によって、4年目の計画はまったく実行が不可能となったので、国内でのZoomによる日本人メンバーによる研究会を開催して議論を重ね、PLAアクション計画評価ワークショップ開催の計画を本科研終了後に学術図書としての出版することに変更した。

4. 研究成果

年度別研究活動成果

<2016年度>

本研究の目的は熱帯アジアのバングラデシュ、ブータン、ミャンマー、ラオス、インドの7村と日本3村を調査対象として、過疎、農業離れ、栽培放棄地、気象災害等々をグローバル問題群として解決方法を国際協働で模索できる実践型地域研究の構築にある。2016年度は、キックオフとして全体計画と運営体制と事務手続きなどの説明、テロ問題(特にバングラデシュ)への対応、本年度各自の研究計画や渡航計画の確認、本研究計画の将来的展望、ミャンマーとブータンでのワークショップ内容と渡航計画の最終確認、の3回の打ち合わせ会をもった。本科研費の有効活用と参加メンバーの調査の時間的便宜を積極的にはかるために、参加メンバー各自が実施する他の研究プロジェクトとの補完的調査と、研究レビューを実施し、他の事業との協働でミャンマーとブータンでワークショップを開催し、ホームページを開設した。平成28年度の参加メンバーによるPRA(参加型農村調査)の結果は次の通りである。

- 1) **グローバル問題特性** グローバル・イシューの重要性そのものの指摘にとどまらず、アジア諸国における問題の指摘とその解決に向けた具体的取り組み、及び組織的な連携強化と実践モデル構築へ向けた提言。
- 2) **過疎の実態** 人口減少と都市圏の拡大の指摘と実態調査に向けた具体的活動の途中経過、及び問題理解に対する多様性と当事者的理解の重要性の指摘。
- 3) **気象災害と災害教育** 災害の歴史性に焦点を当てたデータ発掘とその情報の共有と防災教育の重要性の指摘。
- 4) **農業離れ・土地利用・技術** 農業をはじめとする生業・土地利用の歴史的变化と地域的・民族的な差異の比較についての提言。
- 5) **農業技術と環境保全** 農業技術の選択背景と実践的農業技術の体系化の重要性及び農業生態区分における環境保全と農業技術の再評価についての提言。
- 6) **医療と高齢者問題** 村人の生活習慣変化から見える医療と高齢者問題の指摘。

<2017年度>

- 1) 参加メンバーによる4回の研究会兼打合せ会議を京大東南ア地研で開催。
- 2) ミャンマーとカンボジアで農村開発と農業問題に関する国際会議(ワークショップ)を共催。
- 3) 過疎と農業離れに関する質問表により、バングラデシュ、ブータン、アッサムで調査した。研究協力者のヘンザダ大学 Myinthida 教授がミャンマー国際会議で調査研究を発表。
- 4) 従来までの共同研究成果を Agroforestry and Environment Vol.11 No.1 &2 として刊行。
- 5) ミャンマー、バングラデシュ、ブータンの在地の技術の調査、過疎、離農問題に関するPLAを、ブータン Sherubtse 大学若手講師と学生、京大学生が日本、ブータンで実施。バングラデシュ、アッサム、タイ、マレーシアで人口動態や世代交代に関する調査を実施。気候変動認識聞き取り調査ワークショップをアッサムで実施。宮本は岡山県の洪水履歴とコミュニティ・デベロップメントについて論文公刊。ミャンマーで水田漁労と地域環境保全の調査、結果報告会を調査村で開き、英語と現地語の冊子として村人に配布した。ミャンマー、カンボジアでの国際会議に本研究メンバーが発表した。

<2018年度>

- 1) 分担者を中心に7、12月に京大東南ア地研所で、1月に東南ア地研所バンコク事務所で研究会を開催した。
- 2) 12月の研究会では、平成29年度に実施できなかったローカル問題群がもつグローバル問題群の特性と、農村開発計画評価に関するワークショップを行い、各サイトの結果の概要を和文一枚のパワーポイントで本研究のWebページに掲載した。
- 3) 本科研に関連し、9月には本科研メンバーを主にしたチーム(ミャンマー4名、ブータン2名、日本3名)によるアメリカ州立大学(Cornell, Michigan State)を訪問し、大学による地域コミュニティへの直接的農村開発事業を視察し、帰国時に東南ア地研所で研究会を開催し、本科研の最終目的である大学をベースとしたモデル構築に関する協議をもった。
- 4) 12月にはブータンのティンブーにおいて東南アジアセミナー“Health and Rural Development based on the concept of Gross National Happiness”を開催した。
- 5) 7月にはブータンのカウンターパート3名を京都府過疎地域でのPRAに招へいた。
- 6) 3月に千葉大学で開催された第125回熱帯農業学会でのシンポジウム「アジアの農村の持続性・・・都市と地方の共存共栄は可能か」で本科研メンバー市川、竹田、赤松、安藤4名が登壇

し本科研の成果の一部を発表した。

7)各メンバーは、インド・アッサム州、バングラデシュでアンケートや聞き取りの農村調査のフォローアップを、ミャンマーでの屋敷地の調査を実施した。

<2019 年度>

- 1)分担者を中心に、5月21日に京大東南ア地研において18年度の活動の成果と19年の本研究の実施計画と各メンバーの計画打合せ第1回研究会を実施した。
- 2)7月21日に岡山理科大で第2回研究会のIn-Houseのワークショップを開催し、在地問題班と専門問題班との協力で実施された調査成果が報告され、参加型ワークショップや村人と検討された農村開発計画試案について検討された。
- 3)12月15日に第3回研究会として、京大東南ア地研において、19年度のメンバー各自の研究進捗と今後の予定、及び在地班によるPLAアクションワークショップの成果とPLAアクションプランに関する検討会が実施された。
- 4)浅田はアッサムで現地カウンターパートとともにPLAを実施し、その成果を論文として刊行した。山根はアッサム、バングラデシュで気象災害に関する住民、小学校で生徒教員向け参加型ワークショップを実施した。大西はミャンマーにおいて現地NGOと協力し、保全を兼ねたエコツアーガイドブックを作成し、現地で関係者に配布した。南出はバングラデシュでの従来の村落調査の経年分析、宇佐見はラオス北部の農村における就業移動と農業継承の調査を実施、宮本、市川、鈴木は、国内での調査や従来の研究データの分析を行った。
- 5)19年度はアッサム、ミャンマー、ブータン、ラオスなどの各調査地で、PLAや参加型ワークショップの開催とともに、年度末に予定していた計画を除き、現地調査を踏まえた補足調査が実施された。また、熱帯農業学会、熱帯生態学会などの関連学会でこれまでの調査結果の一部が報告された。

<2020 年度>

2020年10月までに、事前準備、本年度活動予定の検討、分担者、研究協力者の研究成果のとりまとめ、補足現地調査準備を行い、2021年3月までに、海外農山村の補足現地調査、研究最終結果報告の内容検討と編集作業、国際ワークショップ開催と成果取りまとめを行う予定であったが、コロナ禍によって、海外および国内での現地調査、対面による国内会議、国際ワークショップを中止せざるを得ない状況が2022年末まで継続した。インターネットのZoom利用による国際ワークショップも考慮したが、カウンターパートが数ヶ国におよび、ネット環境が整備されていない村人もいることもあり、Zoomによる国際ワークショップは断念した。

2019年度まで実施された現地調査で得られた結果と各自のこれまでの研究成果を統合して、本研究の最終目的である「地域研究を、グローバル問題群の具体的解決方法を国際的協働で模索できるような実践応用学へと進化させること」に目的を絞り、アクション計画の作成から、本研究の終了後に報告書をもとに出版を予定し、それに向けて研究分担者、研究協力者のエッセイ論文集として報告書草稿を作成することと、各自の学会発表は雑誌等での公表に目標を修正した。2020年10月から2022年12月かけて、Zoomによる研究会を毎月、あるいは3ヶ月にほぼ一度のペースで開催し、各自の研究成果発表を行うとともに、それにもつづく、報告書となる各章のドラフト原稿を発表してもらい、その検討会を実施した。成果を補う海外の現場での補足調査等についてはカウンターパートの協力を得て実施して、データ収集を行った。

また、報告書の各章の日本語について、日本語校閲のプロの添削をうけた。日本語校閲をうけた草稿集を本研究の最終成果とした。本研究終了後も共同研究は継続し、この各章草稿集をもとに報告書を図書出版したいと計画している。

総括

本研究は目的でも記したように、バングラデシュ、ブータン、ミャンマー、ラオス、インドの7村と日本3村を対象とし、過疎、農業離れ、栽培放棄地、気象災害等をグローバル問題群として解決方法を国際協働で模索できる実践型地域研究の構築におかれていた。年度別研究活動成果に記したように、十分とは言えないまでも、当初の目的は達成されたと言えるであろう。

本研究の研究活動成果の一つは、従来の客観的分析型の現象説明を行う地域研究に加え、主観的直観型の問題解決への実践につながっていく自覚形成をめざした地域研究（これを実践型地域研究と本研究では定義している）を国内外の共同研究を通じて明確にできたことと、地域における過疎や環境などのグローバル問題の取り組みには大学を拠点とするモデルが実践的に試行される必要があるという認識がメンバー間で共有されたことである。とくに、地域と大学との関係は、アメリカの州立大学の設立理念と地域との関係に学び、本研究の活動成果をさらに発展させるために、次の二つのプロジェクトが生まれている。

基盤研究 (B) (一般) : ミャンマーの大学と在地との連携による地域活性化のための国際協働グローバル地域研究 (令和3年度～令和5年度、コロナ禍のため令和6年)

JICA 草の根パートナー型事業 : ブータン国東部タシガン県における大学—社会連携による地域づくりに関する人材育成開発支援 (令和4年から令和6年度)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計107件（うち査読付論文 31件 / うち国際共著 25件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 浅田晴久	4. 巻 103
2. 論文標題 インド北東地方のボーダーと辺境の変容 アッサム・ブータン国境を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 CIRAS Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 21-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 浅田晴久	4. 巻 32
2. 論文標題 アッサム州における近年の農業変容と地域社会 - 在来ヒンドゥー教徒村落の耕地利用変化に着目して -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 南アジア研究	6. 最初と最後の頁 6-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11384/jjasas.2020.6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 浅田晴久	4. 巻 18
2. 論文標題 コロナ禍におけるオンライン地域学習の試み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 奈良女子大学文学部研究教育年報	6. 最初と最後の頁 15-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Haruhisa Asada and Kamal Vatta	4. 巻 1
2. 論文標題 Regional characteristics of stubble burning in Punjab, India and the effect of the COVID-19 lockdown	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『Aakash Working Paper』	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Haruhisa Asada	4. 巻 58
2. 論文標題 Post-flood relief and agricultural development in Bangladesh	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University	6. 最初と最後の頁 9-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木玲治, 大石高典	4. 巻 86(6)
2. 論文標題 焼畑復活と地域社会 地域資源に着目した地域振興の可能性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 農業と経済	6. 最初と最後の頁 41-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Swe Swe Mar, Naing Naing Moe, Kyaw Ngye, Kazuo Ando	4. 巻 11-1
2. 論文標題 Study of Farmers' use of Fertilizers and Methods of Application for Rice Cultivation in Central Myanmar	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental and Rural Development	6. 最初と最後の頁 99-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤和雄	4. 巻 72
2. 論文標題 マゴー (お母さん) : 母の日に思うこと	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本バングラデシュ協会メール・マガジン	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤和雄	4. 巻 76
2. 論文標題 バングラデシュの小農の工夫が後押ししたチェーン除草	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本バングラデシュ協会メール・マガジン	6. 最初と最後の頁 2-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo Ando	4. 巻 13 (Extra Issue 2)
2. 論文標題 Weeding or Growing Konagi (<i>Monochoria vaginalis</i>): Learning and Practice from Tropical Asian Rice Culture	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Research for Tropical Agriculture	6. 最初と最後の頁 37-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤和雄	4. 巻 81
2. 論文標題 バングラデシュのジャガイモ生産量は世界第7位	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本バングラデシュ協会メール・マガジン	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo Ando, Min Paing, Khin Aye, Myint Thida, Haruo Uchida	4. 巻 Vol.14.Extra issue 1
2. 論文標題 "Recent mechanization and chemicalization of Myanmar agriculture in a village in Ayeyarwady Delta: A case study of Ywathitsu Village, Maubin Township, Myanmar "	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Research for Tropical Agriculture Vol.14.Extra issue 1	6. 最初と最後の頁 47-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤和雄・内田晴夫	4. 巻 Vol.14.Extra issue 2
2. 論文標題 "世界のジャガイモ産地となったベンガルデルタ バングラデシュ D 村での作付体系事例報告 "	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Research for Tropical Agriculture	6. 最初と最後の頁 65-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤和雄	4. 巻 81号
2. 論文標題 巻頭言『『バングラデシュのジャガイモ生産量は世界第7位』』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本バングラデシュ協会メールマガジン	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤和雄	4. 巻 87号
2. 論文標題 巻頭言：『バングラデシュの「摘み菜文化」 - スペリヒユ (Baita Shak) を食べよう 』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本バングラデシュ協会メールマガジン	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤和雄	4. 巻 92号
2. 論文標題 巻頭言：『雨期があげヘモントカール (霜季) が到来する』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本バングラデシュ協会メールマガジン	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤和雄・内田晴夫	4. 巻 第15巻別号1
2. 論文標題 バングラデシュ・ジャムナ氾濫原D村における農民のジャガイモ栽培	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 熱帯農業研究	6. 最初と最後の頁 59-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安井理緒・岩永青史・安藤和雄・原田一宏	4. 巻 -
2. 論文標題 ブータンのGNHから考える岐阜県白川町における有機農業の役割	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 第32回日本熱帯生態学会年次大会要旨集	6. 最初と最後の頁 8-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤和雄	4. 巻 -
2. 論文標題 過疎・農業離れをグローバル問題から再考する：当事者的意識をつみだす	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 第32回日本熱帯生態学会年次大会要旨集	6. 最初と最後の頁 46-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤和雄・内田晴夫	4. 巻 第15巻別号2
2. 論文標題 水田中耕除草機の日本とバングラデシュにおける現在の展開	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 熱帯農業研究	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Khin Lay Swe, Kazuo Ando, Myint Thida	4. 巻 Vol.15.Extra issue 2
2. 論文標題 A conservation agricultural practice for sustainable cropping intensit in rice-legume based farming system:A case study in Maubin Township, Ayeyardy Region, Myanmar	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Research for Tropical Agriculture	6. 最初と最後の頁 3-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤和雄	4. 巻 107号
2. 論文標題 巻頭言：『稲とダンとアマール・ショナル・バングラ』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本バングラデシュ協会メールマガジン107号(2022年11月号)	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤和雄	4. 巻 103号
2. 論文標題 よみがえった回転除草機	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本バングラデシュ協会メールマガジン	6. 最初と最後の頁 3-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤和雄	4. 巻 103号
2. 論文標題 巻頭言：『篠原拾喜先生が導入したバングラデシュの栽培型空心菜 - 南南協力の先駆け - 』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本バングラデシュ協会メールマガジン	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉野馨子	4. 巻 66巻1号
2. 論文標題 漁村における移住の状況－石巻市雄勝半島を事例に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 農村生活研究	6. 最初と最後の頁 15-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 才木 和弥、宮本 真二	4. 巻 9
2. 論文標題 参加意図に着目した地方型市民マラソンの発展要因－おかもやまマラソンの場合－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 半田山地理考古	6. 最初と最後の頁 7-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34552/00002552	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本光平・宮本真二	4. 巻 9
2. 論文標題 トンボ相の変化でみた岡山市街地中心およびその周辺の昭和戦前期と現代の環境の変遷	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 半田山地理考古	6. 最初と最後の頁 15-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34552/00002553	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山根悠介	4. 巻 第243号
2. 論文標題 世界と日本の竜巻の特徴(「竜巻を織る」)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 気象研究ノート(日本気象学会)	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山根悠介	4. 巻 41
2. 論文標題 学校気象観測データを活用した中学校気象分野における気象解析について 令和2年7月豪雨に伴う地上気象要素の変化を例に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 常葉大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 147-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山根悠介	4. 巻 5(2)
2. 論文標題 災害をもたらす豪雨の発生条件に関する解析とその気象学習への活用について : 令和3年7月 熱海で発生した土砂災害を例として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育実践報告誌	6. 最初と最後の頁 67-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山根悠介	4. 巻 6(1)
2. 論文標題 学校気象観測データと気象庁データを活用した台風の解析実例	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育実践報告誌	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山根悠介	4. 巻 6(2)
2. 論文標題 気象日記と観測データを用いた気象解析の例	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 教育実践報告誌	6. 最初と最後の頁 35-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山根悠介	4. 巻 43
2. 論文標題 身近な気象観測データと気象庁データを用いた豪雨の気象条件に関する解析 令和4年9月24日静岡市清水区で甚大な浸水被害をもたらした豪雨を例に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 常葉大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 231-239
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川昌広	4. 巻 17
2. 論文標題 高知県大豊町東豊永地区での協働型研究活動	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 高知大学リサーチマガジン	6. 最初と最後の頁 24 - 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Thiri Hmwe Maung Maung and Ichikawa Masahiro	4. 巻 50
2. 論文標題 Determining Factors of People's Participation in the Community Forest Program in the Central Dry Zone during the Rural Livelihood Transition in Myanmar	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Indian Journal of Ecology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.55362/IJE/2023/3845	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo Ando, Myint Thida, Min Paing, Khin Aye Mu, Soe Win, Haruo Uchida	4. 巻 vol.12 Extra issue 2
2. 論文標題 Household Survey on Rice-Black Gram Cropping System in Maubin Township, Ayeyarwady Delta in Myanmar	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Research for Tropical Agriculture	6. 最初と最後の頁 55-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 安藤和雄	4. 巻 Vol.25 No.2
2. 論文標題 さいちの自覚 実践と研究の区別をこえて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 千葉看護学会誌	6. 最初と最後の頁 49-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo Ando, Yoshio Akamatsu, Natsuki Okada, Khin Aye Mu, Min Paing, Khin Lay Swe	4. 巻 vol.12 Extra issue 2
2. 論文標題 Value Chain of Black Gram and Other Pulses by Small Farmers of Ayeyarwady Delta: the Village Study in Pyapon and Maubin Townships, Myanma, Japanese Society for Tropical Agriculture: Vol.13, Extra issue 1, p.27-28	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Research for Tropical Agriculture	6. 最初と最後の頁 27-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 浅田晴久	4. 巻 14巻2号
2. 論文標題 インパールの過去・現在・未来 南アジアと東南アジアのはざままで	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 E-journal GEO. 査読無. https://doi.org/10.4157/ejgeo.14.296	6. 最初と最後の頁 296-303
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木玲治・大石高典	4. 巻 vol.86(6)
2. 論文標題 焼畑復活と地域社会 地域資源に着目した地域振興の可能性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 農業と経済	6. 最初と最後の頁 41-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Keiko Yoshino, Tatsuya Kawaguchi	4. 巻 7 (1)
2. 論文標題 Farming in Fishing Communities in Japan: Case Study in the Sanriku Region	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Agriculture System	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮本真二	4. 巻 5.巻 7 6
2. 論文標題 岩国平野の地形環境と土地開発：予報	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 半田山地理考古	6. 最初と最後の頁 15-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Min Paing, Myint Thida, Khin Aye Mu, Kazuo Ando	4. 巻 Vol.12 Extra issue 1
2. 論文標題 Socio-economic characteristics and migration patterns of a village in Ayeyarwady Delta: A case study of Ywathitsu Village, Maubin Townships	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Research for Tropical Agriculture	6. 最初と最後の頁 15-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kazuo Ando, Md. Ataur Rahman, Myint Thein	4. 巻 Vol.12 Extra issue 1
2. 論文標題 Terracotta depicting "drawing a plough" from Ranir Banglo, Moinamoti, Bangladesh and Ananda Temple, Bagan, Myanmar.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Research for Tropical Agriculture	6. 最初と最後の頁 13-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Salim Muhammad, Ando Kazuo and Uchida Haruo	4. 巻 -
2. 論文標題 Extension Approach of Bangladesh Agricultural University: History and Current Practice,	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Compilation of selected papers presented at the international Workshop "Exploring Desirable Paths of Agriculture and Rural Development in Asia	6. 最初と最後の頁 66-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Khin Lay Swe and Kazuo Ando	4. 巻 Vol.11 Extra issue 2
2. 論文標題 Environmental and social impact of commercial mung bean [Vigna radiata(L.) Wilezek] in Myanmar	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Research for Tropical Agriculture	6. 最初と最後の頁 21-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kazuo Ando, Khin Lay Swe, Myint Thida, Haruo Uchida, Yoshio Akamatsu	4. 巻 Vol.11 Extra issue 2
2. 論文標題 Black Gram Cultivation in Ayeyarwady Delta from the viewpoint of the comparison of the Bengal Delta: a case study in Maubin Township, Myanmar	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Research for Tropical Agriculture	6. 最初と最後の頁 23-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Y.Akamatsu, N.Okada, K.Ando and H.Uchida	4. 巻 -
2. 論文標題 Structure of Tree Species and its Utilozation of Homestead Garden in Ayeyarwady Delta, Myanmar: A case of D village in Bogalay,	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第28回日本熱帯生態学会年次大会(静岡) 講演要旨集	6. 最初と最後の頁 51-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤和雄、赤松芳郎、内田晴夫	4. 巻 -
2. 論文標題 Renewable Forest Resource of Sokshing in Eastern Bhutan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第28回日本熱帯生態学会年次大会（静岡） 講演要旨集	6. 最初と最後の頁 66-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Minamide, Kazuyo	4. 巻 Vol.23
2. 論文標題 Seeking New Life in Bangladesh: Do rural migrating youth “urbanize” after moving to the city?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Nrvijnana Patrika (Journal of Anthropology)	6. 最初と最後の頁 11-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南出和余	4. 巻 第44巻第2号
2. 論文標題 バングラデシュ独立戦争の映画表象	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 桃山学院大学総合研究所 紀要	6. 最初と最後の頁 15-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川昌広	4. 巻 9
2. 論文標題 関係外部者を受け入れる地域の体制の形成： 高知県大豊町東豊永地区での経験から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Collaboration	6. 最初と最後の頁 11-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川昌広	4. 巻 6
2. 論文標題 「巻き込み、巻き込まれる： 「木を伐る男」氏原さんと高知大学」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 フィールドぶらり「怒田」	6. 最初と最後の頁 12-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅田晴久	4. 巻 -
2. 論文標題 女性の行動圏の変化とNGO活動	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 「南アジア農村部におけるリプロダクティブ・ヘルス改善のためのNGOとの共同研究」(科研費研究成果報告書)	6. 最初と最後の頁 73-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nityananda Deka, Haruhisa Asada, Abani Kumar Bhagabati,	4. 巻 40(1)
2. 論文標題 Landholding structure and rural land use pattern in the Brahmaputra floodplain: A comparative study of villages from upper and lower Assam	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Transactions: Journal of the Institute of Indian Geographers	6. 最初と最後の頁 71-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kazuo Ando, Haruo Uchida, Muhammad Salim, Yoshio Akamatsu	4. 巻 第11巻 別号1
2. 論文標題 University's Potential to Cope with Depopulation and Abandoning Farming : Lessons from Bangladesh Agricultural University Extension Center (BAUEC)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 熱帯農業研究	6. 最初と最後の頁 83-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 安藤和雄、坂本龍太、大野章 他6名	4. 巻 -
2. 論文標題 アジアの開発途上国における生存基盤条件としての生活用水の再検討 ミャンマー、バングラデシュ、ブータンの自然及び生活環境	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 京都大学研究連携基盤グローバル生存基盤展開ユニット 平成28年度研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 57-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 安藤和雄、坂本龍太、大野章 他5名	4. 巻 第2号
2. 論文標題 アジアの開発途上国における生存基盤条件としての生活用水の再検討 ミャンマー、バングラデシュ、ブータンの自然及び生活環境	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 京都大学研究連携基盤グローバル生存基盤展開ユニット ニュースレター	6. 最初と最後の頁 8-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Muhammad Salim, Kazuo Ando, Haruo Uchida	4. 巻 Vol.11 Extra issue 1
2. 論文標題 Farmers's Initiative Technologies in Rice Production after Green Revolution in Bangladesh	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Research for Tropical Agriculture	6. 最初と最後の頁 17-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kazuo Ando, Yoshio Akamatsu and Haruo Uchida	4. 巻 -
2. 論文標題 Research Note of Sokshing in Eastern Bhutan: Agro-ecosystem and Its Sustainable Use in Bhutan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Proceedings of the International Workshop on Forest Ecological Resources Security for Next Generation: Development and Routine Utilization of Forest Ecological Resources and their Domestication	6. 最初と最後の頁 12-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤和雄、平田二千翔、中村将志、阿部梨奈、高柳志帆、柏木真穂、門間ゆきの、岡和來、坂本龍太	4. 巻 第19号
2. 論文標題 GNHを考えた旅 京都大学ILASセミナー「ブータンの農村に学ぶ発展のあり方」 2016年度現地スタ ディーツアー参加者の覚書報告集 4.雑誌名	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ヒマラヤ学誌	6. 最初と最後の頁 185-213
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Myint Thida and Kazuo Ando	4. 巻 Vol.11, No.1&2
2. 論文標題 Cost and benefit of summer paddy cultivation in Myaungmya township: case study on three different farming practices	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 J.of Agroforestry and Environment	6. 最初と最後の頁 115-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Aung Naing Oo, Kazuo Ando, Theingi Khaung and Moe Tin Khaing	4. 巻 Vol.11, No.1&2
2. 論文標題 Food security and socio-economic impacts of soil salinization in the central dry zone of Myanmar: a case study	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 J.of Agroforestry and Environment	6. 最初と最後の頁 149-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Myint Thida and Kazuo Ando	4. 巻 Vol.11, No.1&2
2. 論文標題 Rural urban migration and rural depopulation in Ayeyarwady region: a case study og three villages in Pyarpon township	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 J.of Agroforestry and Environment	6. 最初と最後の頁 115-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Mar Mar Win and Kazuo Ando	4. 巻 Vol.11, No.1&2
2. 論文標題 The effect of drought and the selling of cultivated farmlands on the livelihood of local farmeres in Bagan-Nyaung U area	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 J.of Agroforestry and Environment	6. 最初と最後の頁 89-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Myint Thida and Kazuo Ando	4. 巻 Vol.11, No.1&2
2. 論文標題 Rural urban migration and rural depopulation in Ayeyarwady region: a case study og three villages in Pyarpon township	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 J.of Agroforestry and Environment	6. 最初と最後の頁 115-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kazuo Ando, Yoshio Akamatsu, Haruo Uchida, Anju Chetri, Sonam Wangdi	4. 巻 第10巻 別号2
2. 論文標題 Depopulation and Abandoning Farming Problem as a Global Issues: Bhutanese Scholars' PRA in Kyoto, Summer 2017	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 熱帯農業研究	6. 最初と最後の頁 37-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yoshio Akamatsu, Kazuo Ando, Haruo Uchida, Yeshey Wangrmo	4. 巻 第10巻 別号2
2. 論文標題 Abandonees Farmland and Its Causes in Eastern Bhutan: A Case Study in Phongmey Gewog	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 熱帯農業研究	6. 最初と最後の頁 39-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yoshio Akamatsu, Kazuo Ando, Haruo Uchida, Yeshey Wangrno	4. 巻 -
2. 論文標題 Depopulation and Abandoning Farming Problem as a Global Issue: Bhutanese Scholar's Comparative Experience in Japan, January 2017	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 第27回日本熱帯生態学会年次大会(奄美)講演要旨集	6. 最初と最後の頁 74-74
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Aung Naing Oo and Kazuo Ando	4. 巻 -
2. 論文標題 Food security and socio-economic impacts of soil salinization in the central dry zone of Myanmar: a case study	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 第27回日本熱帯生態学会年次大会(奄美)講演要旨集	6. 最初と最後の頁 75-75
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 市川昌広	4. 巻 5
2. 論文標題 マレーシア・サラワク州における一家族の農村から都市への移住	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Collaboration	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川昌広、佐々木綾子	4. 巻 110号
2. 論文標題 タイ北部農山村における都市への人口移動と過疎化の概況	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本熱帯生態学会ニューズレター	6. 最初と最後の頁 4-10
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kato, Y. Samejima, H., and Ichikawa, M.	4. 巻 10
2. 論文標題 Trans-river migration of the Iban and the Bekatan to the Tatau River Basin in Bintulu	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Ngingit	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ichikawa, JM.	4. 巻 9
2. 論文標題 Rural to urban migration of an Iban family: Comparison with Japanese experience	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Ngingit	6. 最初と最後の頁 25-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川昌広	4. 巻 6
2. 論文標題 巻き込み、巻き込まれる：「木を伐る男」氏原学さんと高知大学	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 フィールドぶらり「怒田」	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木怜治、竹田晋也、ニエンチャン	4. 巻 10(別1)
2. 論文標題 ミャンマー・カレン村落における過去15年間の焼畑動態と休閑地の植生回復	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 熱帯農業研究	6. 最初と最後の頁 53-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田未寿、今北哲也、野間直彦、島上崇子、増田和也、中西康介、鈴木怜治、大石高典	4. 巻 No.23
2. 論文標題 滋賀県高島市のホトラ山	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 生態人類学会ニュースレター	6. 最初と最後の頁 36-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南出和余	4. 巻 43(1)
2. 論文標題 バングラデシュ海外出稼ぎ者の夢と葛藤 出稼ぎ先ギリシャと出身農村社会の狭間で	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 桃山学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 55-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南出和余	4. 巻 23
2. 論文標題 グローバルとローカルの狭間で錯綜する『子ども』のイメージと実態	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 子ども社会研究	6. 最初と最後の頁 41-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Haruhisa Asada	4. 巻 11(1&2)
2. 論文標題 Rice-based cropping system of different ethnic groups across the Brahmaputra floodplain in Assam, India	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Agroforestry and Environment	6. 最初と最後の頁 67-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Haruhisa Asada, Daisuke Sakai, Jun Matsumoto and Wataru Takeuchi	4. 巻 11(1&2)
2. 論文標題 Hydrological environment and Boro rice cultivation in Bangladesh and Assam	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Agroforestry and Environment	6. 最初と最後の頁 25-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅田晴久	4. 巻 32
2. 論文標題 バングラデシュ農村部におけるリプロダクティブ・ヘルス改善のためのNGOとの共同研究 アンケート調査の分析から見る農村女性の実態	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 女性学評論	6. 最初と最後の頁 199-217
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fumie Murata, Toru Terao, Hatsuki Fujinami, Taichi Hayashi, Haruhisa Asada, Jun Matsumoto, Hiambok Jones Syiemlieh	4. 巻 30
2. 論文標題 Dominant Synoptic Disturbance in the Extreme Rainfall at Cherrapunji, Northeast India, Based on 104 Years of Rainfall Data (1902-2005)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Climate	6. 最初と最後の頁 8237-8251
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅田晴久	4. 巻 8
2. 論文標題 書評 R.B.Singh and Pawel Prokop著 『Environment Geography of South Asia: Contributions toward a Future Earth Initiative』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 広島大学現代インド研究	6. 最初と最後の頁 57-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内野慎太郎、宮本真二	4. 巻 5
2. 論文標題 近代以降の岡山の浸水域の変遷とその変容	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 半田山地理考古	6. 最初と最後の頁 21-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 斉藤雅史、宮本真二	4. 巻 5
2. 論文標題 鉱山閉山による成果油研の変化 岡山県、旧柵原町を事例として	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 半田山地理考古	6. 最初と最後の頁 13-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮本真二	4. 巻 .
2. 論文標題 自然環境に関する調査	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 平成27～28年度岩国市文化的景観調査報告集	6. 最初と最後の頁 59-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大竹雅洋・宇佐見晃一	4. 巻 第28巻第3号
2. 論文標題 モザンビークの稲作振興に向けた灌漑稲作農家の経営的課題 - ショクエ灌漑地区の事例 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 開発学研究	6. 最初と最後の頁 8 - 17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤和雄他	4. 巻 17
2. 論文標題 実践哲学を基礎とした東ブータンにおける相互啓発実践型地域研究の試み 京都大学国際交流科目「ブータンの農村に学ぶ発展の在り方：現地スタディーツアー 2015 年度報告集」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ヒマラヤ学誌	6. 最初と最後の頁 39-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ryota Sakamoto, Yasuuki Kosaka, Kazuo Ando et.al.	4. 巻 -
2. 論文標題 Glucose intolerance associated with hypoxia in people living at high altitudes in the Tibetan highland	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 BMJ Open 2016;6:e009728	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2015-009728	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ryota Sakamoto, Yasuko Ishimoto, Motonao Ishikawa, Huining Xu, Kazuo Ando et.al.	4. 巻 18
2. 論文標題 Challenges of Field Medicine from Japan to The "Himalaya Model of Lifestyle-Related Diseases"	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Himalayan Study Monographs	6. 最初と最後の頁 72-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ryota Sakamoto, Rieka Morinaka, Kazuo Ando, Pema Choden, Tenzin Wangchuk, Tashi Phuntsho, Som Bahadur, Dorjee, Michiko Fujisawa, Naoyuki Kato, Akira Ohno	4. 巻 18
2. 論文標題 Detection of Legionella Species from Rainwater on Roads in Bhutan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Himalayan Study Monographs	6. 最初と最後の頁 80-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kazuo Ando et.al.	4. 巻 Vol.9 Extra Issue 2
2. 論文標題 Depopulation and Abandoning Farming Problem as a Global Issue: Bhutanese Scholars' Comparative Experience in Japan, Summer 2016	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Tropical Agriculture and Development	6. 最初と最後の頁 19-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kazuo Ando, Yoshio Akamatsu, Haruo Uchida	4. 巻 -
2. 論文標題 Agricultural Landuse in Rice Growing Villages in Eastern Bhutan: A Case Study of Radhi Gewog	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 The Proceeding of The 26th Annual Meeting of the Japan Society of Tropical Ecology (JASTE26) in Tsukuba	6. 最初と最後の頁 76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshio Akamatsu, Kazuo Ando, Haruo Uchida.	4. 巻 -
2. 論文標題 Change of Livelihood and Landuse of Brokpas in Eastern Bhutan: A Case Study of Murbi Village	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 The Proceeding of The 26th Annual Meeting of the Japan Society of Tropical Ecology (JASTE26) in Tsukuba	6. 最初と最後の頁 77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noemi-Tina Duperies and Kazuo Ando	4. 巻 Vol.10, Extra issue 1
2. 論文標題 Livelihood Problems and Cultural Adaptation in Southern Chin Village under Recent Economic Change in Myanmar	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Tropical Agriculture and Development	6. 最初と最後の頁 65-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo Ando, Haruo Uchida, Yan Lin, Maung Maung Oo, Khin Maung Hthun, Khin Lay Soe, Khin Thanda Win, Mar Mar Win, Myint Thida	4. 巻 Vol.10, Extra issue 1
2. 論文標題 Depopulation and Abandoning Farming Problem as Global Issue: Myanmar Member of Parliament and Scholars' Comparative Experience in Japan, Winter 2016	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Tropical Agriculture and Development	6. 最初と最後の頁 83-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅田晴久	4. 巻 7
2. 論文標題 インド・アッサム州, プラマプトラ川氾濫原におけるムスリム移民の生業活動と土地利用 - ヒンドゥー教徒住民との比較を通して -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 広島大学現代インド研究 - 空間と社会 -	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浅田晴久	4. 巻 7
2. 論文標題 いかに気候資源を利用するか - インド農村における環境適応技術の事例より -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 地域生活学研究	6. 最初と最後の頁 139-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 斉藤雅史・宮本真二	4. 巻 5
2. 論文標題 鉱山閉山による生活圏の変化 - 岡山県旧柵原町を事例として -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 半田山地理考古	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nyein Chan, Shinya Takeda, Reiji Suzuki, Sota Yamamoto	4. 巻 47
2. 論文標題 Assessment of biomass recovery and soil carbon storage of fallow forests after swidden cultivation in the Bago Mountains, Myanmar	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 New Forests	6. 最初と最後の頁 565-585
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11056-016-9531-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nyein Chan and Shinya Takeda.	4. 巻 36
2. 論文標題 The Transition Away From Swidden Agriculture and Trends in Biomass Accumulation in Fallow Forests: Case Studies in the Southern Chin Hills of Myanmar.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Mountain Research and Development	6. 最初と最後の頁 320-331
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1659/MRD-JOURNAL-D-14-00083.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takayoshi Yamaguchi, Sonam Ngodup, Nitsuhiro Nose, Shinya Takeda	4. 巻 11(4)
2. 論文標題 Community-Scale Analysis of the Farmland Abandonment Occurrence Process in the Mountain Region of Ladakh, India	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Land Use Science	6. 最初と最後の頁 401-416
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/1747423X.2016.1174317	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ryota Sakamotoa, Kiyohito Okumiya, Tsering Norboo, Norboo Tsering, Takayoshi Yamaguchi, Mitsuhiro Nose, Shinya Takeda et.al.	4. 巻 249
2. 論文標題 Sleep quality among elderly high-altitude dwellers in Ladakh.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Psychiatry Research	6. 最初と最後の頁 51-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.psychres.2016.12.043	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木玲治, 竹田晋也, ニエンチャン	4. 巻 10(別1)
2. 論文標題 ミャンマー・カレン村落における過去 15 年間の焼畑動態と休閑地の植生回復	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 熱帯農業研究	6. 最初と最後の頁 53-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shoko Sakai, Choy Yee Keong, Keiko Kishimoto-Yamada, Kohei T. Takano, Masahiro Ichikawa, Hiromitsu Samejima, Yumi Kato, Ryoji Soda, Masayuki Ushio, Izuru Saizen, Tohru Nakashizuka, Takao Itioka	4. 巻 204
2. 論文標題 Social and ecological factors associated with the use of non-timber forest products by people in rural Borneo.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Biological Conservation	6. 最初と最後の頁 340-349
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Khin Lay Swe, Kazuo Ando	4. 巻 10
2. 論文標題 Rice Production in Salt Affected Areas of Central Dry Zone, Myanmar	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of the Tenth Agricultural Research Conference	6. 最初と最後の頁 201-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計73件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 9件)

1. 発表者名 安藤和雄、赤松芳郎、内田晴夫
2. 発表標題 実践型地域研究によるブータンの過疎・農業離れ問題へのアプローチ
3. 学会等名 日本国際地域開発学会2019年度春季大会 (東京農業大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo Ando, Yoshio Akamatsu, Koichi Usami, Tshering Wangdi, Tashi Dorji, Khin Lay Swe, Myint Thida, Nyein Nyein Htwe, Thering Gi Myint
2. 発表標題 The perspective of Universities' Practical Participation in Community Development: Study Tour Report on State Universities' Activities in the USA, Sept. 2018
3. 学会等名 第29回日本熱帯生態学会年次大会（札幌）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安藤和雄
2. 発表標題 さいちの自覚 実践と研究の区別をこえて
3. 学会等名 千葉看護学会 第25回学術集会（千葉大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Haruhisa Asada
2. 発表標題 Transformation of Agriculture and Rural Society in Muktapur village
3. 学会等名 Workshop on Rural Livelihood and Environmental Changes Muktapur village（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉野馨子
2. 発表標題 浜のくらしの研究 - サブシステムの視点から
3. 学会等名 東北社会学会シンポジウム（東北大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Dipendra Dhakal and Yoshino Keiko
2. 発表標題 Social Capital and Collective Action for Disaster Recovery in Rural Nepal
3. 学会等名 11th International conference on Environmental and Rural Development, Cambodia (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nobuhiro Ohnishi, Kyaw Yadanar Min, Ye Htet, Khin Swe Oo, Kay Thi Mya, Khin Ohnmar Htwe, Myint Myint Soe, Than Zaw, Ai Suzuki, Kyaw Myo Naing, Wai Wai Hnin Kyaw
2. 発表標題 Ecology and Behavior of Smooth Coated Otter <i>Lutrogale perspicillata</i> in Myanmar
3. 学会等名 XIV International Otter Congress, 8-13 April 2019, IUCN SSC OTTER SPECIALIST GROUP (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大西信弘
2. 発表標題 生物の多様性;多様になる仕組みと多様である利益
3. 学会等名 京都大学阿武山観測所『公開講座』(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nobuhiro Ohnishi
2. 発表標題 Satoyama in Myanmar & Japan
3. 学会等名 Japan-Myanmar Satoyama Forum, Yangon, Myanmar (2019, 11, 21-22)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大西信弘
2. 発表標題 コツメカワウソがCITESで附属書Iにランクが上がったことについて
3. 学会等名 MBSニュース番組「ミント！」(2019, 11, 27)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮本真二
2. 発表標題 中世に陸化した岩国平野の地形環境変遷と土地開発史
3. 学会等名 考古学研究会第65回総会・研究集会(岡山大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮本真二
2. 発表標題 中世に陸化した岩国平野の土地開発史
3. 学会等名 第62回歴史地理学会大会(立命館アジア太平洋大学、大分県別府市)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮本真二
2. 発表標題 アジア・モンスーン地域における民族移動と土地開発プロセスの検討
3. 学会等名 第5回半田山地理考古学研究会(岡山理科大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮本真二
2. 発表標題 日本の「環境考古学」の成立とその展望
3. 学会等名 日本動物考古学会 第7回大会 (千葉市埋蔵文化財センター)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Minamide Kazuyo
2. 発表標題 Introductory : The Generation 1990s and the Social Change in Bangladesh
3. 学会等名 International Symposium: Perceiving Contemporary Young Generation in Bangladesh:
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Minamide Kazuyo
2. 発表標題 Seeking New Life in Bangladesh: Do rural migrating youth “urbanize” after moving to the city?,
3. 学会等名 International Symposium: Perceiving Contemporary Young Generation in Bangladesh
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Minamide Kazuyo
2. 発表標題 Inclusivism with Inequality: Ideology vs. Practical Effectiveness of Education
3. 学会等名 The 10th INDAS-South Asia International Conference “Inclusive Development in South Asia,” Tokyo University of Foreign Studies, Tokyo, Japan, December 2018.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Minamide Kazuyo
2. 発表標題 Contemporary Young Generation in Bangladesh: Locating their Life Strategies in Global Settings
3. 学会等名 India-China Corridor Writing Workshop, Kachin Land Research Centre and Kachin Theological College, Myitkyina, Myanmar, November 2018.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Minamide Kazuyo
2. 発表標題 What has disappeared and what has remained in the life stages in Bangladesh? Responding to Prof. Hara's Fieldwork after 50 years,' in the Panel of 'Remembering Village after 50 Years: Reconsidering an Ethnography by the late Professor Tadahiko Hara
3. 学会等名 "5th International Congress of Bengal Studies," Jahangirnagar University, Dhaka, Bangladesh
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 市川昌広
2. 発表標題 東マレーシアと東南・東アジア諸国の農村における過疎・高齢化の共通点・差異点
3. 学会等名 熱帯農業学会（公開シンポジウム）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 市川昌広
2. 発表標題 マレーシア・サラワク州、都市近郊イバン人農村の20年の変化
3. 学会等名 日本熱帯生態学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Haruhisa Asada
2. 発表標題 Ecological structure of the multi ethnic society in Assam
3. 学会等名 Workshop on Socioeconomic/Hydroclimatological Perspectives of Future Asian Monsoon, The University of Tokyo
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅田晴久
2. 発表標題 アッサム州における農業離れと耕地利用の変化 - カースト・ヒンドゥー教の村落の事例より
3. 学会等名 日本南アジア学会第31回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅田晴久
2. 発表標題 モンスーンアジアにおける近年の稲作技術展開
3. 学会等名 日本地理学会2018年度秋季学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Haruhisa Asada
2. 発表標題 Influence of NGO on behavioral changes of rural women in Bangladesh
3. 学会等名 Seminar on 'Empowerment and Reproductive Health of women in Rural Bangladesh: based on a collaborative research with NGO', University of Dhaka,
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Haruhisa Asada
2. 発表標題 Living spaces of ethnic groups and their relationship with ecological environment in Assam, India
3. 学会等名 XVIII World Economic History Conference, Boston
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木 怜治
2. 発表標題 日本の焼畑の現状と展望 - 火入れでよみ がえる日本の食・森・地域のつながり -
3. 学会等名 椎葉焼畑研究会-世界 農業遺産 3 周年記念フォーラム (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo Ando
2. 発表標題 Depopulation and Abandoning Farming Problem as a Global Issue: Bhutanese Scholar's Comparative Experience in Japan, January 2017
3. 学会等名 第 2 7 回日本熱帯生態学会年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Aung Naing Oo and Kazuo Ando
2. 発表標題 Food security and Socio-economic impacts of soil salinization in central Myanmar A case study
3. 学会等名 第 2 7 回日本熱帯生態学会年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kazuo Ando, Yoshio Akamatsu, Haruo Uchida, Anju Chetri and Sonam Wangdi
2. 発表標題 Depopulation and Abandoning Farming Problem as a Global Issue: Bhutanese Scholars' PRA in Kyoto, summer 2017
3. 学会等名 第122回日本熱帯農業学会年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoshio Akamatsu, Kazuo Ando and Haruo Uchida
2. 発表標題 Abandoned Farmland and Its Causes in Eastern Bhutan : A Case Study in Phongmey Gewog
3. 学会等名 第122回日本熱帯農業学会年次大会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山根悠介
2. 発表標題 インド亜大陸北東域におけるシビアローカルストーム環境の長期変動」
3. 学会等名 国際研究集会「アジアにおけるグローバル問題群を考える - 南アジア諸国と日本の 比較を中心に - 」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kazuyo Minamide
2. 発表標題 What has disappeared and what has remained in the life stages in Bangladesh? Responding to Prof. Hara's Fieldwork after 50 years
3. 学会等名 5th International Congress of Bengal Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazuyo Minamide
2. 発表標題 Rural-Urban Migration of Youth and their Seeking New Life in Bangladesh
3. 学会等名 The 46th Annual Conference on South Asia (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 南出和余
2. 発表標題 バングラデシュ経済成長における学歴形成がなす意味 縫製業に従事する『教育第一世代』の若者たちの事例から
3. 学会等名 東京大学南アジア研究センター設立記念シンポジウム『南アジアの社会経済発展の基盤 教育・市場・国家』
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 浅田晴久
2. 発表標題 インド・アッサム州の生態環境と多民族社会の人口分布
3. 学会等名 日本人口学会関西地域部会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Haruhisa Asada
2. 発表標題 farm abandonment in Japan and Assam
3. 学会等名 The 1st International Cultural Symposium on North East India and Japan (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅田晴久
2. 発表標題 インド・アッサム州の離農の現状
3. 学会等名 国際研究会「アジアにおけるグローバル問題群を考える - 南アジア諸国と日本の 比較を中心に - 」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Haruhisa Asada
2. 発表標題 Rainfall variation and rice cropping technology in Assam, India
3. 学会等名 XXXII Annual IAPT Convention 2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 浅田晴久
2. 発表標題 南アジア・東南アジアの境界地域における風土
3. 学会等名 日本地理学会モンスーンアジアの風土研究グループ例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 浅田晴久
2. 発表標題 バングラデシュ農村部におけるリプロダクティブ・ヘルス改善のためのNGOとの共同研究 アンケート調査の分析から見る農村女性の実態
3. 学会等名 神戸女学院大学女性学インスティテュート主催第1回女性学研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 浅田晴久
2. 発表標題 インド・アッサム州の自然と社会 南アジアと東南アジアのはざままで
3. 学会等名 第13回ジオコミュニケーションセミナー（於香川大学）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮本真二、内野慎太郎
2. 発表標題 近代以降の岡山平野における洪水浸水域の変遷とその要因の検討
3. 学会等名 国際研究集会「アジアにおけるグローバル問題群を考える - 南アジア諸国と日本の 比較を中心に - 」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shinji Miyamoto
2. 発表標題 Present Activities in Relation to Community Development of Okayama University of Sci.
3. 学会等名 International Workshop "A Way for Enhancing History, Culture and Tradition for Rural Development in Myanmar and Southeast Asia: GNH and Perspective of Alternative Approaches"
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白石 純、亀田修一、徳澤啓一、宮本真二、亀山唯達
2. 発表標題 備前市佐山東山窯跡の発掘調査について
3. 学会等名 東南アジア考古学会・中四国支部例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮本真二、内野慎太郎
2. 発表標題 近代以降の岡山平野における洪水浸水域の変遷とその要因の検討
3. 学会等名 第60回歴史地理学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮本真二、岩国市産業振興部錦帯橋課
2. 発表標題 瀬戸内臨海平野の地形環境変遷と遺跡立地
3. 学会等名 地域地理科学会2017年大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 李長林、宮本真二
2. 発表標題 岡山市における2010年前後のコンビニエンスストアの立地展開
3. 学会等名 地域地理科学会2017年大会（ポスター）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 斉藤雅史、宮本真二
2. 発表標題 鉦山閉山による生活の変容 岡山県旧作原町を事例として
3. 学会等名 地域地理科学会2017年大会（ポスター）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 内野慎太郎、宮本真二
2. 発表標題 近代以降の岡山における浸水域の変遷とその要因
3. 学会等名 地域地理科学会2017年大会（ポスター）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Koichi Usami
2. 発表標題 Link Model Approaches in Bangladesh in Agricultural and Rural Development in Bangladesh
3. 学会等名 International Workshop “A Way for Enhancing History, Culture and Tradition for Rural Development in Myanmar and Southeast Asia: GNH and Perspective of Alternative Approaches”（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村田文絵・寺尾 徹・藤波初木・林 泰一・浅田晴久・松本 淳
2. 発表標題 インド・チェラプンジにおける降水量の長期データ解析
3. 学会等名 日本地理学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 浅田晴久
2. 発表標題 インド・アッサム州における多民族社会の存立構造
3. 学会等名 日本地理学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 浅田晴久
2. 発表標題 アッサム州におけるアホミヤ、ボド、ネパリの村落生活
3. 学会等名 第11回南アジアにおける自然環境と人間活動に関する研究集会 - インド・バングラデシュと周辺諸国における防災知識の共有を考える -
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宮本真二
2. 発表標題 アジアの土地開発史パターンの対比
3. 学会等名 第11回南アジアにおける自然環境と人間活動に関する研究集会 - インド・バングラデシュと周辺諸国における防災知識の共有を考える
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Shinji MIYAMOTO
2. 発表標題 "Natural Disasters" related to Development in Central and Eastern Himalaya
3. 学会等名 "International Workshop: Myanmar Way of Agricultural and Rural Development (MWARD): Considering the approach of GNH
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shinji MIYAMOTO and Masashi SAITO
2. 発表標題 Geographical Environment Changes after a Small-Scale Mine Industry Closure in Okayama Prefecture, Western part of Japan
3. 学会等名 International Workshop on Role of University in Promoting of GNH in Practice and Sustainable Development
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Reiji Suzuki, Shinya Takeda, and Nyein Chan
2. 発表標題 Fallow vegetation recovery process in relation to swidden cultivation dynamics during past 14 years in a Karen village of Myanmar
3. 学会等名 IUFRO (国際林業研究機関連合) Regional Congress for Asia and Oceania 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ohnishi, Nobuhiro
2. 発表標題 Biodiversity in the paddy field of rice growing Asia, Myanmar
3. 学会等名 Biodiversity and Wildlife Conservation Workshop
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ohnishi, Nobuhiro
2. 発表標題 People's trial against decreasing the number of children and aging of society in Hozu Town, Kameoka City, Kyoto Prefecture, Japan
3. 学会等名 Myanmar Way of Agricultural and Rural Development (MWARD): Considering the approach of GNH
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Khin Ohnamr Htwe, Kazuo Ando, Koichi Usami and Nobuhiro Ohnishi
2. 発表標題 Natural Disaster from 2012 to 2015 in Myanmar: The Comparison between Kyone Soke Village, Maubin Township and Thanbo Island Village, Patheingyi Township
3. 学会等名 第11回南アジアにおける自然環境と人間活動に関する研究集会 - インド・バングラデシュと周辺諸国における防災知識の共有を考える -
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Minamide, Kazuyo
2. 発表標題 The Strategy of Wearing Veils by Young Women in Bangladesh, ' in the Panel of ' Educational Experience and Gender in South Asia
3. 学会等名 International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 南出和余
2. 発表標題 学校化される子ども若者の身体 『バングラデシュ農村社会の『教育第一世代』の子どもたち』
3. 学会等名 日本子ども社会学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 南出和余
2. 発表標題 バングラデシュ農村の若者たちの「移動」から考える階層の生産・再生産
3. 学会等名 INDAS-South Asia京大拠点研究グループ1-A第1回バングラデシュ研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 南出和余
2. 発表標題 バングラデシュ経済成長下の若者たち - 農村と都市のはざまを生きる -
3. 学会等名 日本南アジア学会九州支部12月定例研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 南出和余
2. 発表標題 バングラデシュ農村出身の若者たちにとっての「都市」
3. 学会等名 第11回南アジアにおける自然環境と人間活動に関する研究集会「インド・バングラデシュと周辺諸国における防災知識の共有を考える」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Minamide, Kazuyo
2. 発表標題 Urban Migration of Youth under the Rapid Economic Growth and the Impact on Rural Depopulation: A Case of Japanese Village in 1960s
3. 学会等名 International Workshop on The Role of University in Promoting GNH Through Practice, and Rural Development
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shoko Sakai, Choy Yee Keong, Keiko Kishimoto-Yamada, Kohei Takano, Masahiro Ichikawa, Hiromitsu Samejima, Yumi Kato, Ryoji Soda, Masayuki Ushio, Izuru Saizen, Tohru Nakashizuka, Takao Itioka
2. 発表標題 URBANIZATION, POPULATION CHANGE AND FOREST COVER IN RURAL BORNEO
3. 学会等名 日本生態学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 市川昌広
2. 発表標題 マレーシア・サラワク州バラム川流域村落における空戸の増加と人口移動の要因
3. 学会等名 第26回日本熱帯生態学会年次大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 寺尾徹・村田文絵・山根悠介・木口雅司・福島あずさ・田上雅浩・林泰一・松本淳
2. 発表標題 英領インド気象局日降水量データを活用したインド亜大陸北東部における降水特性変動の解析
3. 学会等名 日本地理学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Terao, T., F. Murata, T. Hayashi, et al.
2. 発表標題 ENSO impact on South Asia climate through the monsoon trough from the western North Pacific to the Bay of Bengal
3. 学会等名 The 5th Joint Workshop between National Chiayi University and Kagawa University
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Terao, T.
2. 発表標題 Living spaces and changing climatological environment
3. 学会等名 International Workshop on Living Spaces under Changing Climate
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 . International Workshop on Living Spaces under Changing Climate, 2016年11月7日, Shillong, India. 寺尾徹・村田文絵
2. 発表標題 8月の西部北太平洋モンスーンとインド亜大陸北東部の洪水
3. 学会等名 日本気象学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計18件

1. 著者名 Haruhisa Asada (Bora, Ashok Kumar and Saikia, Dibyajyoti eds.)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 EBH Publishers	5. 総ページ数 310
3. 書名 Resource Management and Livelihood Issues : Regional and National Perspectives	

1. 著者名 Haruhisa Asada (Anup Saikia and Pankaj Thapa (Eds.))	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 241
3. 書名 Environmental Change in South Asia: Essays in Honor of Mohammed Taher	

1. 著者名 安藤 和雄・赤松 芳郎・アバニィ クマール バガバティ・石本 恭子・稲村 哲也・奥宮 清人・奥山 直 司・河合 明宣・川本 芳・木村 友美・小坂 康之・小林 尚礼・坂本 龍太・竹田 晋也・タシ ドルジ・ト モ リバ・ニッタノンダ デカ・水野 一晴・宮本 真二・リンチン ツェリン ドゥンカルバ	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 560
3. 書名 東ヒマラヤー都市なき豊かさの文明	

1. 著者名 浅田晴久	4. 発行年 2020年
2. 出版社 かがわ出版	5. 総ページ数 180
3. 書名 「溶融する自然と社会 インドの大気汚染を事例に」, 西谷地晴美編 『気候危機と人文学 人々の未来の ために』, 123-141頁	

1. 著者名 浅田晴久	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 888
3. 書名 「発展途上国の開発と環境保全」, 現代地政学事典編集委員会編『現代地政学事典』, 208-209頁.	

1. 著者名 Haruhisa Asada	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer Nature Singapore Pvt Ltd.	5. 総ページ数 172
3. 書名 「Cultivation of Glutinous Rice in Northeast India, and Its Food Products」 Satoshi Yokoyama, Jun Matsumoto and Hitoshi Araki eds. 『Nature, Culture, and Food in Monsoon Asia』 p25-40.	

1. 著者名 Jun Matsumoto and Haruhisa Asada	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer Nature Singapore Pvt Ltd.	5. 総ページ数 172
3. 書名 「Rainfall, Floods, and Rice Production in the Ganges-Brahmaputra-Meghna River Basin」 Satoshi Yokoyama, Jun Matsumoto and Hitoshi Araki eds. 『Nature, Culture, and Food in Monsoon Asia』 p3-14	

1. 著者名 Nityananda Deka, Haruhisa Asada and Yusuke Yamane (eds.)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Shinohara Printing Co.,Ltd.	5. 総ページ数 63
3. 書名 『Rural Livelihoods and Environmental Changes in Muktapur Village: People 's Voice』 .	

1. 著者名 宮本真二 (人文地理学会 (編著))	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 888
3. 書名 環境難民 (現代地政学辞典 214-215)	

1. 著者名 南出和余、木島由晶編著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 せりか書房	5. 総ページ数 242
3. 書名 メディアの内と外を読み解く 大学におけるメディア教育実践 -	

1. 著者名 南出和余	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 336
3. 書名 バングラデシュ女子の高学歴化と『女子大生』の挑戦 (『インド ジェンダー研究ハンドブック』粟屋利江、井上貴子編)	

1. 著者名 市川昌広	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 348
3. 書名 マレーシア・サラワク州ミリ省の村々で進む人口減少とその背景 (飯國芳明編『土地所有権の空洞化』)	

1. 著者名 安藤和雄（分担執筆）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 440
3. 書名 Bangladeshを知るための66章、第3版	

1. 著者名 安藤和雄（分担執筆）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 創元社	5. 総ページ数 247
3. 書名 ブータン 国民の幸せをめざす王国	

1. 著者名 南出和余（分担執筆）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 440
3. 書名 Bangladeshを知るための66章、第3版	

1. 著者名 南出和余（分担執筆）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 333
3. 書名 インド ジェンダー研究ハンドブック	

1. 著者名 浅田晴久 (分担執筆)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 770
3. 書名 インド文化事典	

1. 著者名 宮本真二 (分担執筆)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 -
3. 書名 日本の「環境考古学」と地理学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>アジアの在地の協働によるグローバル問題群に挑戦する実践型地域研究 https://pas.cseas.kyoto-u.ac.jp/activity/HP_KAKEN_A/index.html 京都大学東南アジア地域研究研究所 実践型地域研究推進室 https://pas.cseas.kyoto-u.ac.jp/index.html アジアの在地の協働によるグローバル問題群に挑戦する実践型地域研究 https://pas.cseas.kyoto-u.ac.jp/activity/HP_KAKEN_A/index.html 京都大学東南アジア地域研究研究所 実践型地域研究推進室 https://pas.cseas.kyoto-u.ac.jp/index.html アジアの在地の協働によるグローバル問題群に挑戦する実践型地域研究 https://pas.cseas.kyoto-u.ac.jp/activity/HP_KAKEN_A/index.html アジアの在地の協働によるグローバル問題群に挑戦する実践型地域研究 https://pas.cseas.kyoto-u.ac.jp/activity/HP_KAKEN_A/index.html</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	宇佐見 晃一 (USAMI KOICHI) (10203506)	名古屋大学・国際開発研究科・教授 (13901)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山根 悠介 (YAMANE YUSUKE) (10467433)	常葉大学・教育学部・准教授 (33801)	
研究分担者	浅田 晴久 (ASADA HARUHISA) (20713051)	奈良女子大学・人文科学系・准教授 (14602)	
研究分担者	宮本 真二 (MIYAMOTO SHINJI) (60359271)	岡山理科大学・生物地球学部・准教授 (35302)	
研究分担者	鈴木 玲治 (SUZUKI REIJI) (60378825)	京都先端科学大学・バイオ環境学部・教授 (34303)	
研究分担者	大西 信弘 (ONISHI NOBUHIRO) (80378827)	京都先端科学大学・バイオ環境学部・教授 (34303)	
研究分担者	市川 昌広 (ICHIKAWA MASAHIRO) (80390706)	高知大学・教育研究部自然科学系農学部門・教授 (16401)	
研究分担者	南出 和余 (MINAMIDE KAZUYO) (80456780)	神戸女学院大学・文学部・准教授 (34510)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	内田 晴夫 (UCHIDA HARUO)		
研究協力者	赤松 芳郎 (AKAMATSU YOSHIO)		
研究協力者	岡田 夏樹 (OKADA NATSUKI)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計5件

国際研究集会 International Workshop “A Way for Enhancing History, Culture and Tradition for Rural Development in Myanmar and Southeast Asia: GNH and Perspective of Alternative Approaches	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 International Workshop on “Exploring desirable paths of agriculture and rural development in Asia: Changing livelihoods, international collaborations and trans-disciplinary challenges”	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 The 12th Workshop on Environment and Human Activities in South Asia -Challenges to Global issues in Asia through collaboration with locally existing-	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 Myanmar Way of Agricultural and Rural Development (MWARD): Considering the approach of GNH	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 International Workshop on “The Role of University in Promoting GNH through Practice, and Rural Development”	開催年 2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ミャンマー	マウーピン大学	ヤンゴン大学	イエジン農業大学	他2機関
バングラデシュ	バングラデシュ農業大学	JRDS	ジャンギールナゴール大学	他1機関
インド	ゴウハティ大学	ゴアールパラ大学	インド熱帯気象研究所	
ブータン	ブータン王立大学シェラブツ チェ校	ブータン王立大学CNR校		

共同研究相手国	相手方研究機関			
カンボジア	カンボジア王立大学 -	カンボジア王立農業大学		
ラオス	ラオス国立大学			